

Accuphase

PRECISION MDS D DIGITAL PROCESSOR

プレジジョン MDS D デジタル・プロセッサ

DC-1000

取扱説明書



ご使用の前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読み
のうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きか
えにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保管してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
 ございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

5年間の品質保証と保証書

本機の品質保証は5年間です。付属の「お客様カード（保証書発行はがき）」に必要事項を記入の上、必ず（なるべく10日以内）でご返送ください。「お客様カード」と引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

- *「お客様カード」のご返送や「品質保証書」の発行について、詳しくは19ページをご参照ください。
- *「品質保証書」はサービスサポート時に必要となります。保証書がない場合は、全て有償修理となりますので、保証登録を行っていただき、届きました保証書を大切に保管してください。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、お求めの当社製品取扱店または当社品質保証部へ、直ちにご連絡ください。

尚、保証は日本国内のみ適用されます。

The Accuphase warranty is valid only in Japan.

HS-LINKはアキュフェーズ株式会社の登録商標です。

付属品をご確認ください

- | | |
|--|-------------------------------------|
| ● 取扱説明書（本書）…………… 1冊 | ● AC電源コード(2m) (APL-1) …………… 1本 |
| ● 安全上のご注意…………… 1冊 | ● プラグ付オーディオケーブル(1m) (ASL-10B) …… 1組 |
| ● 品質保証書について／
お客様カード（保証書発行はがき）…………… 1枚 | ● USBユーティリティ3 CD…………… 1枚 |
| ● 目隠しシール…………… 1枚 | ● USBユーティリティ3・セットアップガイド …… 1冊 |
| | ● クリーニングクロス…………… 1枚 |

ご注意

- ① 本書の内容の一部または全部を無断で複製・転載・改題することはおやめください。
- ② 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- ③ 本書に、ご不明な点、誤り、記載もれ、乱丁、落丁などがありましたら弊社までご連絡ください。



マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。



警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。



注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

目次

付属品をご確認ください……………表紙裏頁

1. 安全上必ずお守りください ……………	2	4. 接続方法 ……………	8~12
△警告……………	2	4.1 接続図……………	8
△注意/お手入れ……………	2	4.2 DP-1000との接続……………	9
2. 各部の名前 ……………	3,4	4.3 PCとの接続……………	9
2.1 フロントパネル……………	3	4.4 デジタル機器との接続……………	10
2.2 リアパネル……………	3	4.5 テレビやブルーレイ/DVDレコーダーとの接続……………	10
2.3 リモート・コマンダー RC-140 (DP-1000に付属)……………	4	4.6 デジタル・レコーダーでの録音/再生……………	11
リモート・コマンダーによる操作を無効にする方法……………	4	4.7 ヴォイスシング・イコライザーとの接続……………	12
3. 各部の動作説明 ……………	5~7	5. 本機のご使用方法 ……………	13
3.1 フロントパネル……………	5,6	6. HS-LINK について ……………	14
1 電源スイッチ……………	5	『Ver.1対応機器』と『Ver.2対応機器』……………	14
2 INPUTボタン……………	5	注意:『Ver.2対応機器』から『Ver.1対応機器』への接続方法……………	14
3 LEVELボタン……………	5	HS-LINKケーブル……………	14
4 リモート・センサー……………	5	7. 保証特性 ……………	15
5 ディスプレイ……………	6	8. 特性グラフ ……………	16
3.2 リアパネル……………	6,7	9. ブロック・ダイアグラム ……………	17
6 デジタル入力端子……………	6	10. 故障かな?と思われるときは ……………	18
7 アナログ出力端子……………	7	11. アフターサービスについて ……………	19
8 極性切替スイッチ……………	7		
9 デジタル出力端子……………	7		
10 AC電源コネクタ……………	7		

安全上必ず
お守りください

各部の名前

各部の動作説明

接続方法

本機のご
使用方法HS-LINK
について

保証特性

特性グラフ

ブロック・
ダイアグラム故障かな?と
思われるときはアフターサービス
について

1. 安全上必ずお守りください

ご使用の前にこの「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。



警告

- 電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。
 - AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。
- 電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。
 - 付属または当社指定の電源コード以外は絶対に使用しない。
 - めれた手で電源プラグを絶対に触らない。
 - 電源コードの上に重い物をのせたり、本機の下敷きにしたりしない。
 - 電源コードが傷んだら、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。
- 密閉されたラック等には絶対に設置しない。
 - 通風が悪いと機器の温度が上がり、火災や故障の原因となります。
- 放熱のため製品の周辺は他の機器や壁等から十分な間隔(10cm以上)を空ける。
- 機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)、新聞紙、テーブルクロスなどを置かない。
- 火災又は感電を防止するために、雨がかかる場所又は湿気のある場所では絶対使用しない。
- ウッドキャビネットやボトムプレート(底板)は絶対に外さない。
 - 内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。
- 脚の交換は危険ですから行わない。
 - 取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因になります。
- 次の場合には本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。安全を確認後、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。
 - 製品に水や薬品などの液体がかかった場合。
 - 内部に異物(燃えやすい物やヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。
 - 故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
 - 落としたり、破損したりした場合。

* 上記の各項目に対して、電源スイッチをOFFにしただけでは、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

* 万一の場合、電源コードをコンセントから容易に外せるように、コードの引き回しやコンセント周りの環境を整えてください。
- 入・出力端子や、AC電源コネクター、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

樹脂部が経年劣化で破損したり、端子部がショートをおこしたりして、感電や火災あるいは故障の原因になる事があります。(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)



注意

- 次のような場所には設置しない。故障や事故の原因となります。

● 通風が悪い場所	● 極端に温度の低い場所
● 湿度の高い場所	● 振動のある場所
● 埃の多い場所	● 傾斜のある場所
● 直射日光の当たる場所	● 不安定な場所
● 暖房器具の近くなど温度の高い場所	
- パワーアンプなど他の機器に直接重ねて設置しない。故障の原因となります。
- チューナーやテレビ、DVDレコーダー等から離して設置する。近くに置くと雑音や映像の乱れが生じることがあります。(特に室内アンテナの場合はご注意ください。)アンテナ線と本機の電源コードや入・出力ケーブルを離して設置してください。
- 入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切ってから行なう。

ラインケーブルのプラグを抜き差しするときは、一瞬GND側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する恐れがあります。
- 電源スイッチは、各機器が正しく接続されてから入れる。故障の原因となります。
- 電源スイッチを切ってから、10秒以内に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。
- 長期間使用しないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜く。より安全にお使いいただけます。
- 演奏の前にボリュームを絞っておく。

不用意にボリュームを上げると、思わぬ大音量でアンプやスピーカーを破損することがあります。
- HS-LINKの接続には、当社製のHS-LINKケーブルを使う。他のケーブルを使用すると、故障の原因となります。
- HS-LINKはPCのLAN等に接続しない。

LAN等に接続すると、それぞれの機器やシステムが破損するおそれがあります。
- 室温35℃以下で使用する。故障の原因となります。

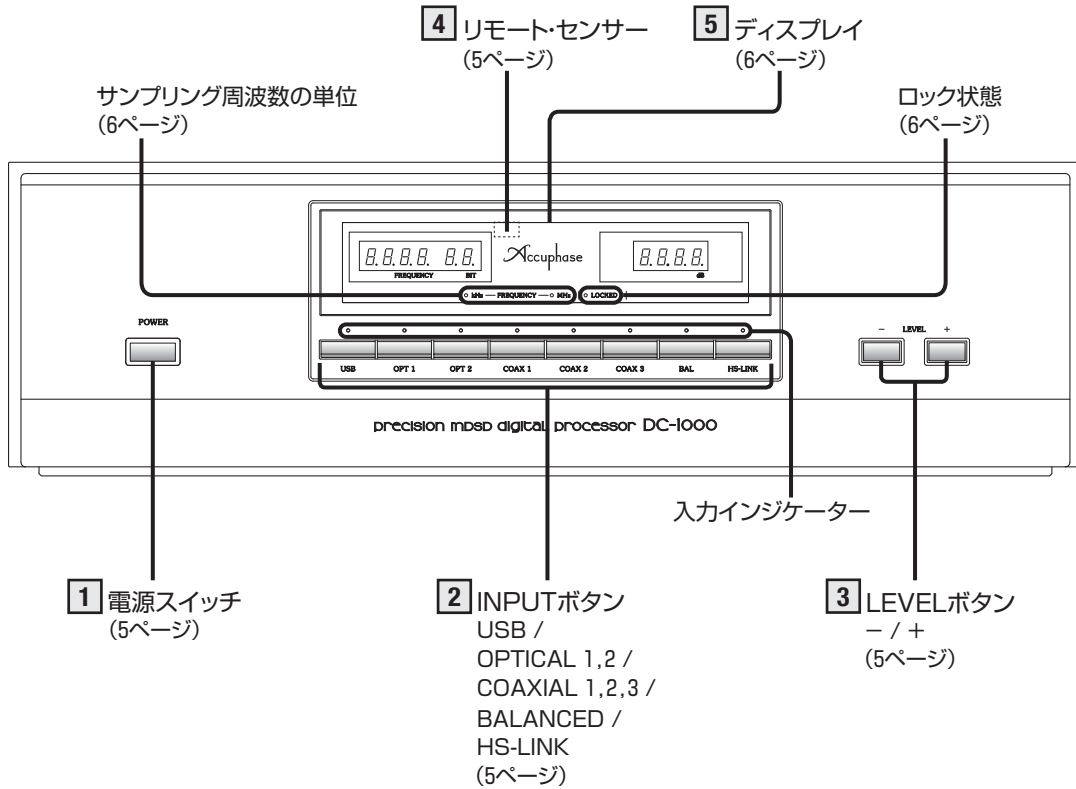
お手入れ

- お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体のホコリやゴミ、指紋等汚れの拭き取りには付属のクリーニングクロスを使用してください。特にウッドキャビネットの場合には、表面を傷つけることなく、きれいに拭き取ることができます。
- クリーニングクロスは、洗濯して繰り返し使用できます。洗剤で洗濯後、よく水洗いをし、乾いた状態でご使用ください。
- ベンジン、シンナー、油、ワックス等を使用してお手入れは、表面を変色させたり、傷つけたりしますので使わないでください。

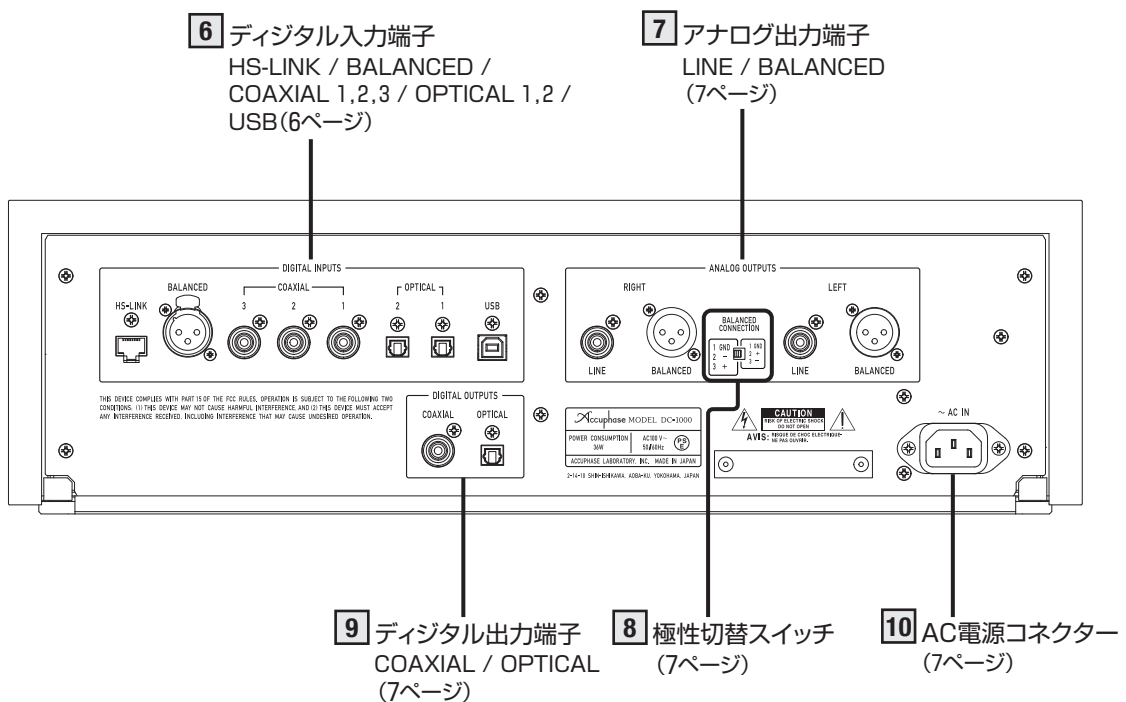
2. 各部の名前

詳しい説明は、各項目()内のページを参照してください。

2.1 フロントパネル



2.2 リアパネル



2.3 リモート・コマンダー RC-140 (DP-1000に付属)

各部の名前

各部の動作説明

2 INPUT

本機の入力を切り替えます(5ページ)。

3 LEVEL

本機のアナログ出力信号の出力レベルを調整します(5ページ)。

DP-1000の機能

詳しくはDP-1000の取扱説明書をご参照ください。

選曲

REPEAT

BACK

NEXT

PLAY

当社プリアンプ、プリメイン・アンプの機能 (DC-330、DC-300など一部の機種を除く)

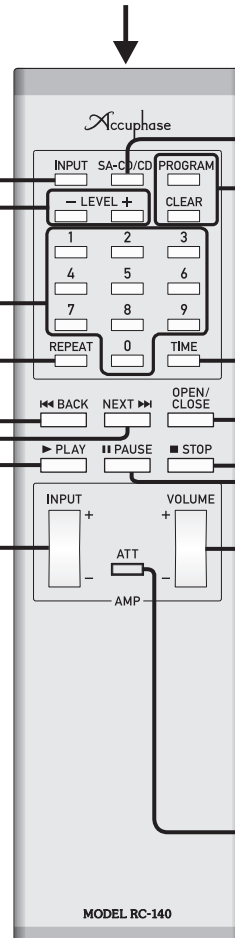
INPUT

プリアンプ、プリメイン・アンプの入力を切り替えます。

+ 点灯したインジケータが右方向に回転します。

- 点灯したインジケータが左方向に回転します。

発光部



DP-1000の機能

詳しくはDP-1000の取扱説明書をご参照ください。

SA-CD/CD

PROGRAM/CLEAR

TIME

OPEN/CLOSE

STOP

PAUSE

当社プリアンプ、プリメイン・アンプの機能 (DC-330、DC-300など一部の機種を除く)

VOLUME

プリアンプ、プリメイン・アンプの音量をコントロールします。

ATT

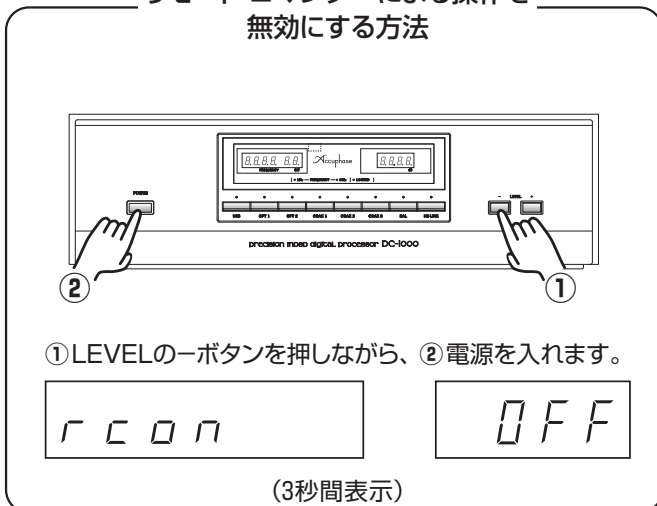
プリアンプ、プリメイン・アンプのATTENUATORをON/OFFします。

ON時には出力レベルを $\frac{1}{10}$ (-20dB)に下げます。

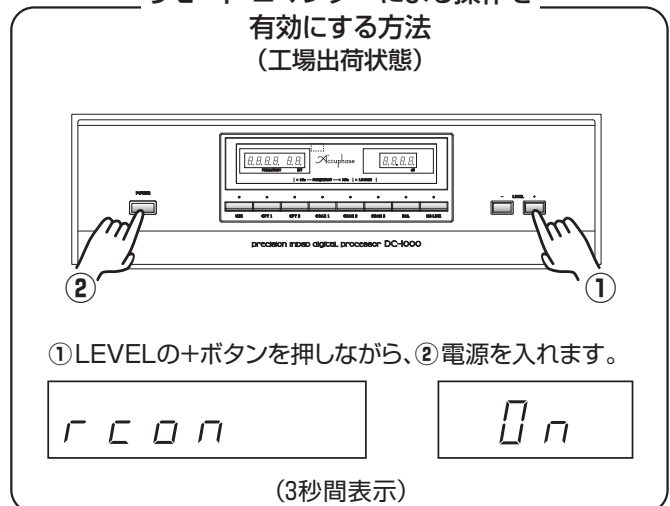
リモート・コマンダーによる操作を無効にする方法

本機以外の当社CDプレーヤーをリモート・コマンダーで操作しようとした場合に、本機と一緒に操作されてしまうのを防ぐため、本機はリモート・コマンダーによる操作を無効にする機能を搭載しています。

リモート・コマンダーによる操作を無効にする方法



リモート・コマンダーによる操作を有効にする方法 (工場出荷状態)



3. 各部の動作説明

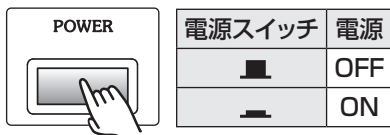
- 詳しい使用方法は()内のページを参照してください。
- 本説明書では、「トラック」と「曲」を同義で扱っています。

3.1 フロントパネル

各部の名前

各部の動作説明

1 電源スイッチ

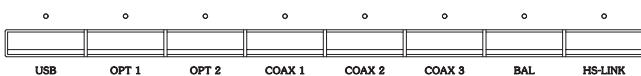


電源をON/OFFするためのスイッチです。

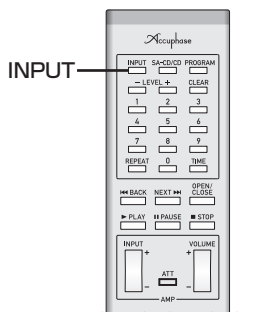
注意

電源を切った後、10秒以内に再び電源を入れないでください。ノイズ発生などの原因となります。

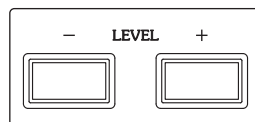
2 INPUTボタン



デジタル入力信号を選択するためのボタンです。選択した入力のインジケータが点灯します。リモート・コマンダー(DP-1000に付属)のINPUTボタンを押すと、左側から順番に入力を切り替えます。

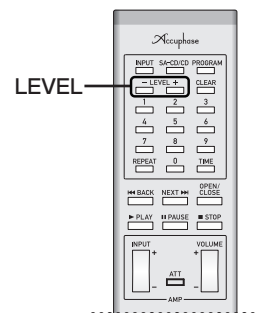


3 LEVELボタン

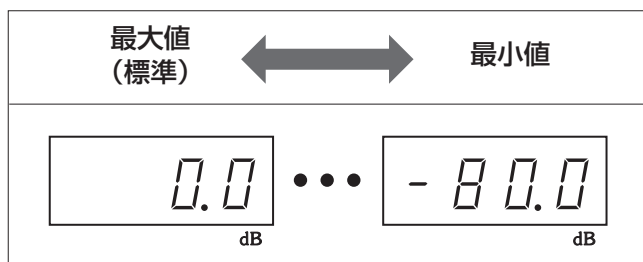


アナログ出力信号の出力レベルを調整するためのボタンです。

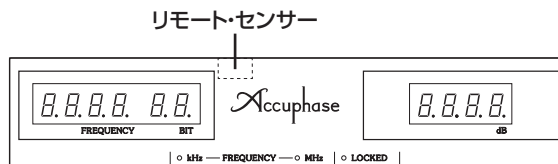
0dB～-80dBの調整が可能です。通常は0dBで使用します。出力レベルを絞り切ることはいけません。他のプレーヤーと出力レベルを揃えたい時などにご使用いただけます。リモート・コマンダー(DP-1000に付属)のLEVELボタンでも操作可能です。



アナログ出力信号の出力レベルの表示



4 リモート・センサー

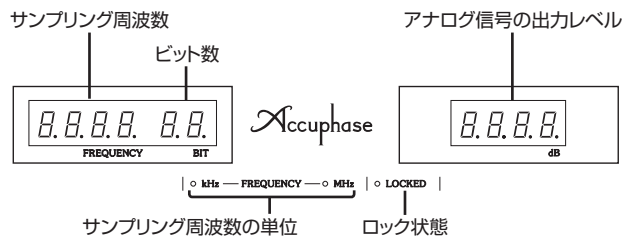


リモート・コマンダーの受光部です。

5 ディスプレイ

入力信号のサンプリング周波数、ビット数、アナログ信号の出力レベルを表示します。

アナログ信号の出力レベルの表示については、**3** LEVELボタン(5ページ)をご参照ください。

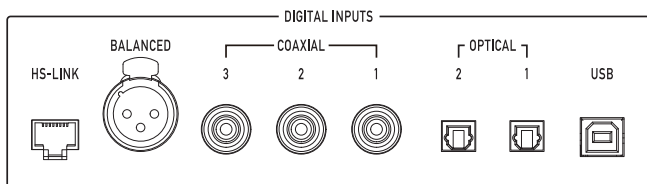


サンプリング周波数とビット数の表示

入力信号	サンプリング周波数の単位	ロック状態	サンプリング周波数	ビット数
リニアPCM	(点灯) (消灯) ☀ kHz — FREQUENCY — ● MHz	(点灯) ☀ LOCKED	32.0 44.1 48.0 FREQUENCY FREQUENCY FREQUENCY 88.2 96.0 176.4 FREQUENCY FREQUENCY FREQUENCY 192.0 352.8 384.0 FREQUENCY FREQUENCY FREQUENCY	0 16 BIT BIT 24 32 BIT BIT
1 bit DSD	(消灯) (点灯) ● kHz — FREQUENCY — ☀ MHz	(点灯) ☀ LOCKED	2.8 5.6 11.2 FREQUENCY FREQUENCY FREQUENCY	1 BIT
なし	(消灯) (消灯) ● kHz — FREQUENCY — ● MHz	(消灯) ● LOCKED	-- FREQUENCY	-- BIT

3.2 リアパネル

6 デジタル入力端子



デジタル信号の入力端子です。デジタル機器を接続します。

接続ケーブル

入力端子	ケーブル
HS-LINK	HS-LINKケーブル
BALANCED	デジタル・バランスケーブル
COAXIAL 1,2,3	75Ω同軸デジタルケーブル
OPTICAL 1,2	光ファイバーケーブル(JEITA規格)
USB *1	USB2.0タイプBコネクター付ケーブル(2m以内)

入力可能なサンプリング周波数とビット数

入力信号		サンプリング周波数	ビット数
HS-LINK	Ver.2	DSD	2.8 / 5.6 MHz
		PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192 / 352.8 / 384 kHz
	Ver.1	DSD	2.8 MHz
		PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192 kHz
BALANCED		32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192 kHz	16~24
COAXIAL 1,2,3		32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192 kHz	16~24
OPTICAL 1,2		32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 kHz	16~24
USB	DSD	2.8 / 5.6 / 11.2 MHz (11.2 MHz : ASIOのみ)	1
	PCM	44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192 / 352.8 / 384 kHz	16~32

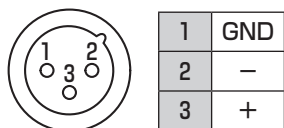
*1

注意

- USB端子を使用するには、PCと接続する前に、本機に付属するUSBドライバソフトウェアをPCにインストールする必要があります。詳しくは別冊のUSBユーティリティ3・セットアップガイドを参照してください。
- 最新のUSBドライバソフトウェアは当社ホームページ <https://www.accuphase.co.jp/> 上でご案内いたします。
- USB端子に接続したPCの設定や操作方法はPCの取扱説明書をご覧ください。
- USBケーブルは2m以内を推奨します。

7 アナログ出力端子

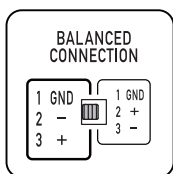
アナログ信号を出力するためのバランス/ライン出力端子です。



バランス出力端子のピンの極性

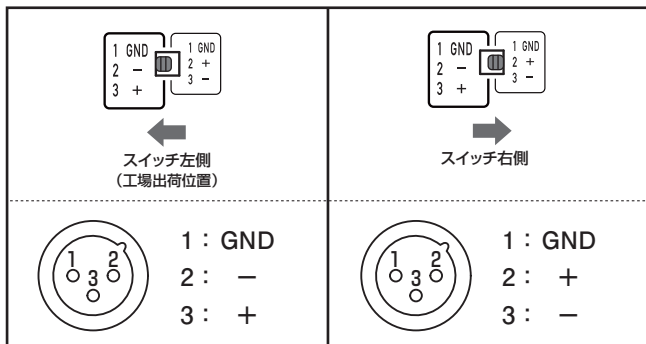
メモ バランス出力端子の極性は、**8** 極性切替スイッチで切り替えることができます。
当社製バランスケーブルをご用意しています。

8 極性切替スイッチ

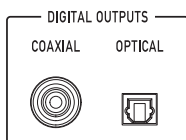


7 アナログ・バランス出力端子の極性を切り替えるためのスイッチです。

当社製品(一部のプロ機器を除く)と接続する場合は、スイッチを左側(工場出荷位置)のままご使用ください。接続する機器の極性が本機と異なる場合は、スイッチを右側にしてください。ただし、極性は必ずしも合わせる必要はありません。合わせなくても演奏は可能です。



9 デジタル出力端子



INPUT ボタンで選択したデジタル入力信号を出力するための端子です。この端子にデジタルレコーダーを接続すれば、デジタル録音が可能です。

出力可能なデジタル信号

出力端子	信号	サンプリング周波数	ビット数
COAXIAL	PCM	192kHz以下	16~24
OPTICAL	PCM	96kHz以下	16~24

メモ HS-LINKで入力したSA-CDのデジタル信号は、著作権保護のため、このデジタル端子から出力しません。

10 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。



警告

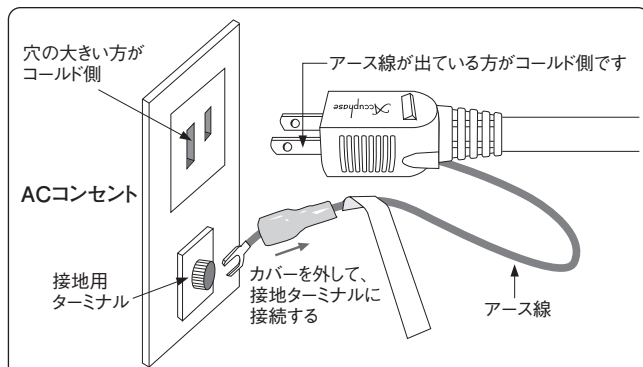
電源は必ずAC100V家庭用コンセントを使用する。

■電源コードに付いているアース線の接続

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全になります。接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

■入・出力端子や、AC電源コネクター、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

経年劣化による樹脂部の破損や、端子部のショートにより、感電や火災あるいは故障の原因になることがあります。(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)



警告

アース線の接地用ターミナルへの接続は、必ずプラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース線を外すときは必ずプラグをコンセントから抜いてから行ってください。

■電源コードの極性表示

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

◆注意

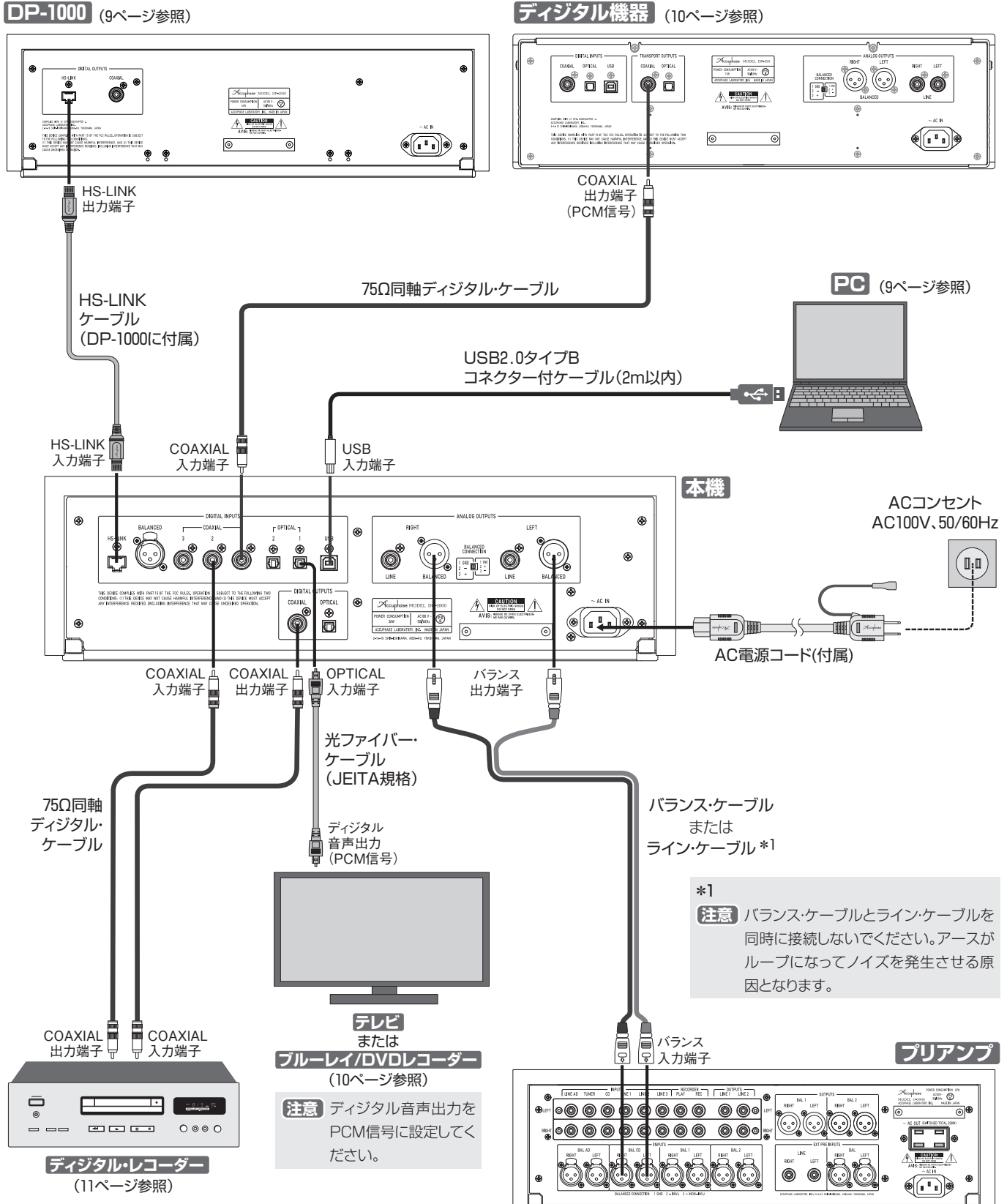
- 室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。
- 大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。

注意 : 接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

4. 接続方法

4.1 接続図

本機にDP-1000、PC、CDプレーヤー、FMチューナー、テレビ、デジタル・レコーダーなどのデジタル機器をデジタル信号で接続すると、本機の高性能DACでアナログ信号へと変換した演奏をお楽しみいただけます。詳細な接続方法については各機器の参照ページをご覧ください。

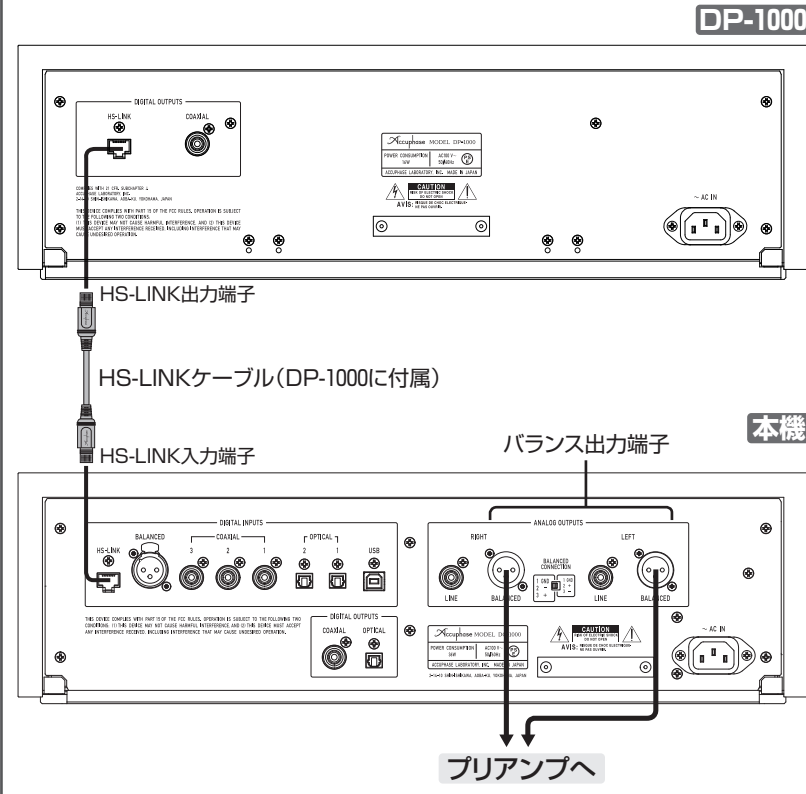


接続方法

注意 : 接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

4.2 DP-1000との接続

本機とDP-1000をHS-LINKケーブル(DP-1000に付属)で接続します。HS-LINKケーブルで接続すれば、SA-CDとCDの演奏が可能です。



接続

本機とDP-1000をHS-LINKケーブルで接続します。

入力信号の選択

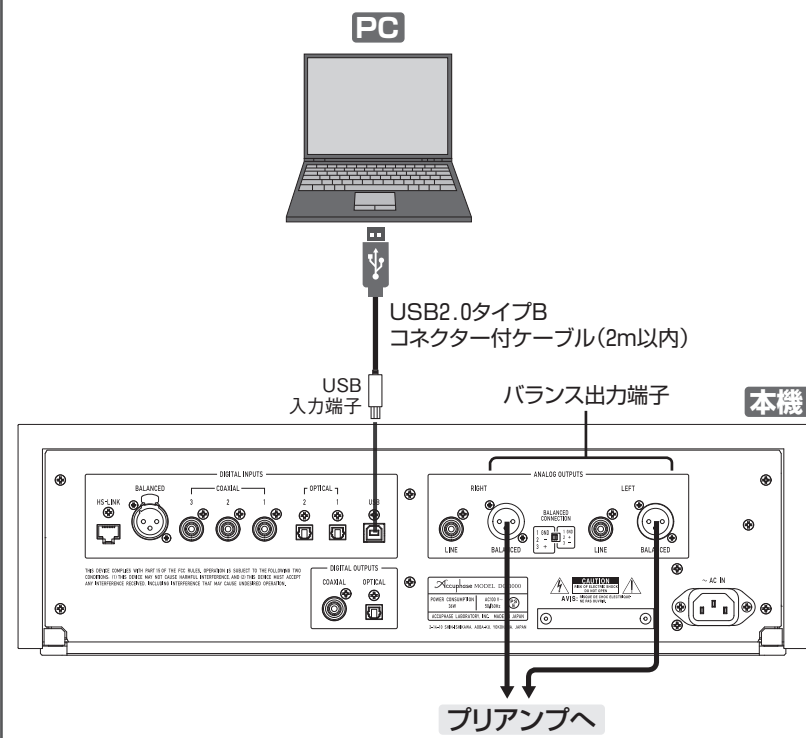
HS-LINK入力を本機のINPUTボタンで選択します。

メモ 本機とDP-1000を同軸ケーブルで接続することも可能ですが、CDのみの伝送となります。

接続方法

4.3 PCとの接続

本機とPCを接続すると、PCに保存したデジタル音源を、本機の高性能DACでアナログ信号へと変換した演奏をお楽しみいただけます。



接続

本機とPCをUSB2.0タイプBコネクタ付ケーブル(2m以内)で接続します。

入力信号の選択

USB入力端子を本機のINPUTボタンで選択します。

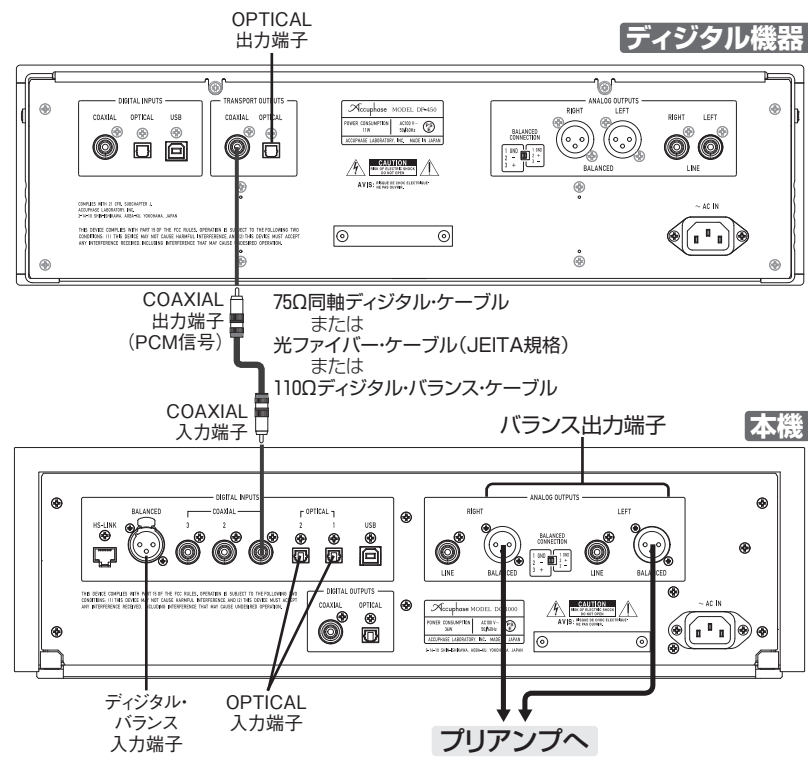
注意

- USB端子を使用するには、PCと接続する前に、本機に付属するUSBドライバソフトウェアをPCにインストールする必要があります。詳しくは別冊のUSBユーティリティ3-セットアップガイドを参照してください。
- 最新のUSBドライバソフトウェアは当社ホームページ <https://www.accuphase.co.jp/> 上でご案内いたします。
- USB端子に接続したPCの設定や操作方法はPCの取扱説明書をご覧ください。
- USBケーブルは2m以内を推奨します。

注意 : 接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

4.4 デジタル機器との接続

本機とCDプレーヤー、FMチューナー、MDプレーヤーなどのデジタル機器をデジタル信号で接続すると、本機の高性能DACでアナログ信号へと変換した演奏をお楽しみいただけます。



接続
本機とデジタル機器を75Ω同軸デジタルケーブル、光ファイバーケーブル、110Ωデジタルバランスケーブルで接続します。

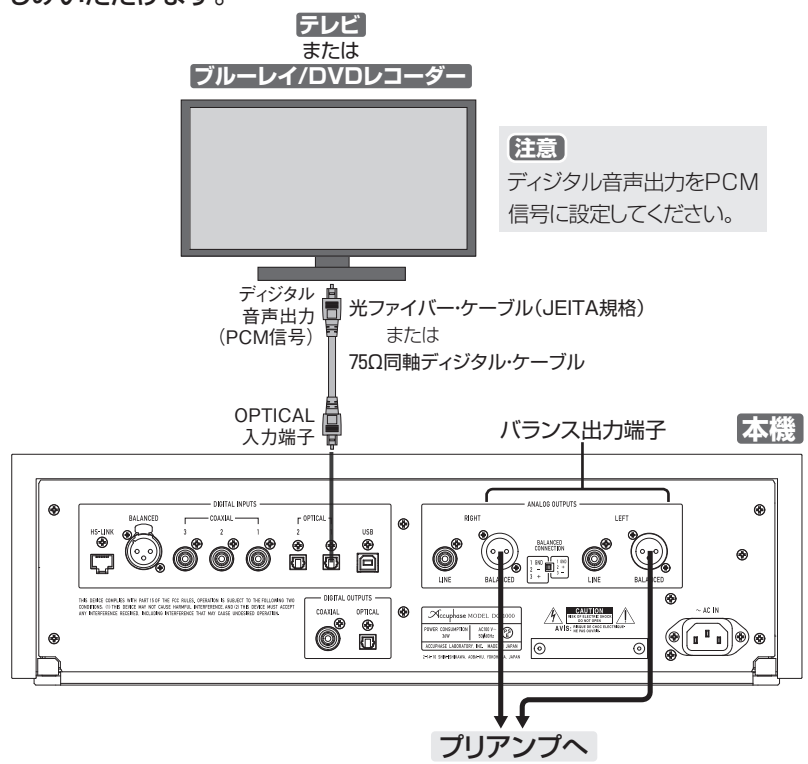
入力信号の選択
接続した入力端子を本機のINPUTボタンで選択します。

- 注意**
- デジタル・バランス、COAXIAL、OPTICALの各入力端子にはPCM信号を入力してください。送信機器側でPCM信号への切り替えが必要な場合もあります。
 - 光ファイバーは、曲げなどの力には非常に弱く、断線する場合があります。長さに余裕があるときは、セットの後ろで丸く(直径10cm以上)束ねて、決して強く曲げないでください。
 - 光ファイバーは、コア(芯材)に光信号が通ります。プラグの先端のキズ、汚れ、レセプタクルの中の異物は大敵です。使用しない時には、必ずキャップを付けてください。
 - 光ファイバーの抜き差しは、プラグをしっかり持って行かない、ファイバーを引っ張らないように注意してください。

接続方法

4.5 テレビやブルーレイ/DVDレコーダーとの接続

本機とテレビやブルーレイ/DVDレコーダーなどの映像機器を接続すると、テレビの音声をステレオ・システムでお楽しみいただけます。



接続
本機とテレビやブルーレイ/DVDレコーダーなどを光ファイバーケーブルや75Ω同軸デジタルケーブルで接続します。

入力信号の選択
接続した入力端子を本機のINPUTボタンで選択します。

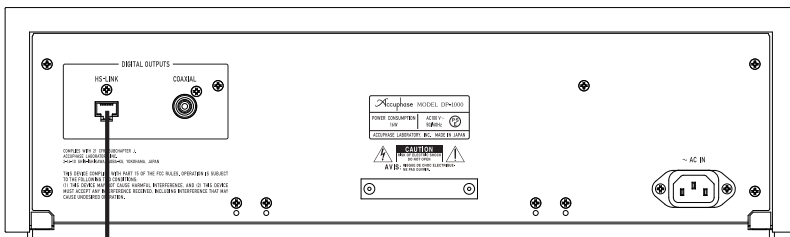
- 注意**
- COAXIAL、OPTICALの各入力端子にはPCM信号を入力してください。送信機器側でPCM信号への切り替えが必要な場合もあります。
 - 光ファイバーは、曲げなどの力には非常に弱く、断線する場合があります。長さに余裕があるときは、セットの後ろで丸く(直径10cm以上)束ねて、決して強く曲げないでください。
 - 光ファイバーは、コア(芯材)に光信号が通ります。プラグの先端のキズ、汚れ、レセプタクルの中の異物は大敵です。使用しない時には、必ずキャップを付けてください。
 - 光ファイバーの抜き差しは、プラグをしっかり持って行かない、ファイバーを引っ張らないように注意してください。

**注意** : 接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

4.6 デジタル・レコーダーでの録音/再生

本機にデジタル・レコーダーを接続すると、CDプレーヤー、FMチューナー、MDプレーヤーなどのデジタル信号を録音/再生することができます。

DP-1000などのデジタル機器



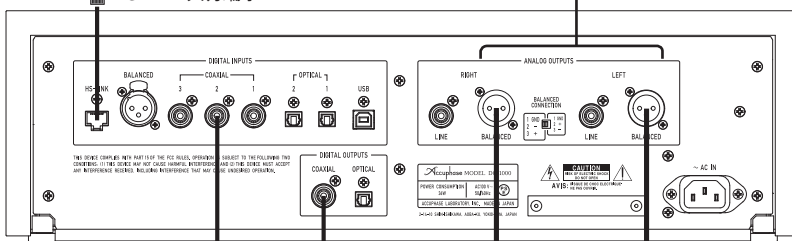
HS-LINK出力端子

HS-LINK*1
または
110Ωデジタル・バランス・ケーブル
または
75Ω同軸デジタル・ケーブル
または
光ファイバー・ケーブル

HS-LINK入力端子

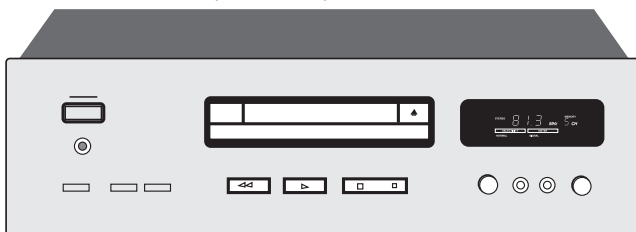
バランス出力端子

本機

COAXIAL
入力端子COAXIAL
出力端子

プリアンプへ

75Ω同軸デジタル・ケーブル
または
光ファイバー・ケーブル(JEITA規格)

COAXIAL
出力端子COAXIAL
入力端子

デジタル・レコーダー

接続

- 本機とCDプレーヤー、FMチューナー、MDプレーヤーなどのデジタル機器をデジタル信号で接続します。

*1

注意 DP-1000と本機をHS-LINKケーブルで接続しても、SA-CDは著作権保護のためデジタル録音できません。CDの録音は可能です。

- 本機のデジタル出力端子とデジタル入力端子の間にデジタル・レコーダーを接続します。

録音

① 入力信号の選択

接続したデジタル機器の入力端子を本機のINPUTボタンで選択し、スピーカーから音を出して確認します。

② 入力信号の録音

①で選択した入力信号がデジタル出力端子からレコーダーへ出力されますので、レコーダーを録音状態にすれば、接続したデジタル機器の出力信号が録音されます。

メモ

- 本機の出カLEVELは、録音される音量には影響しません。
- レコーダーでの録音中に、レコーダーからのデジタル入力信号をアナログ出力端子から出力することはできません。

再生

① 入力信号の選択

レコーダーを接続した入力端子を本機のINPUTボタンで選択します。

② レコーダーの再生

レコーダーを再生状態にすると、録音した信号の演奏が始まります。

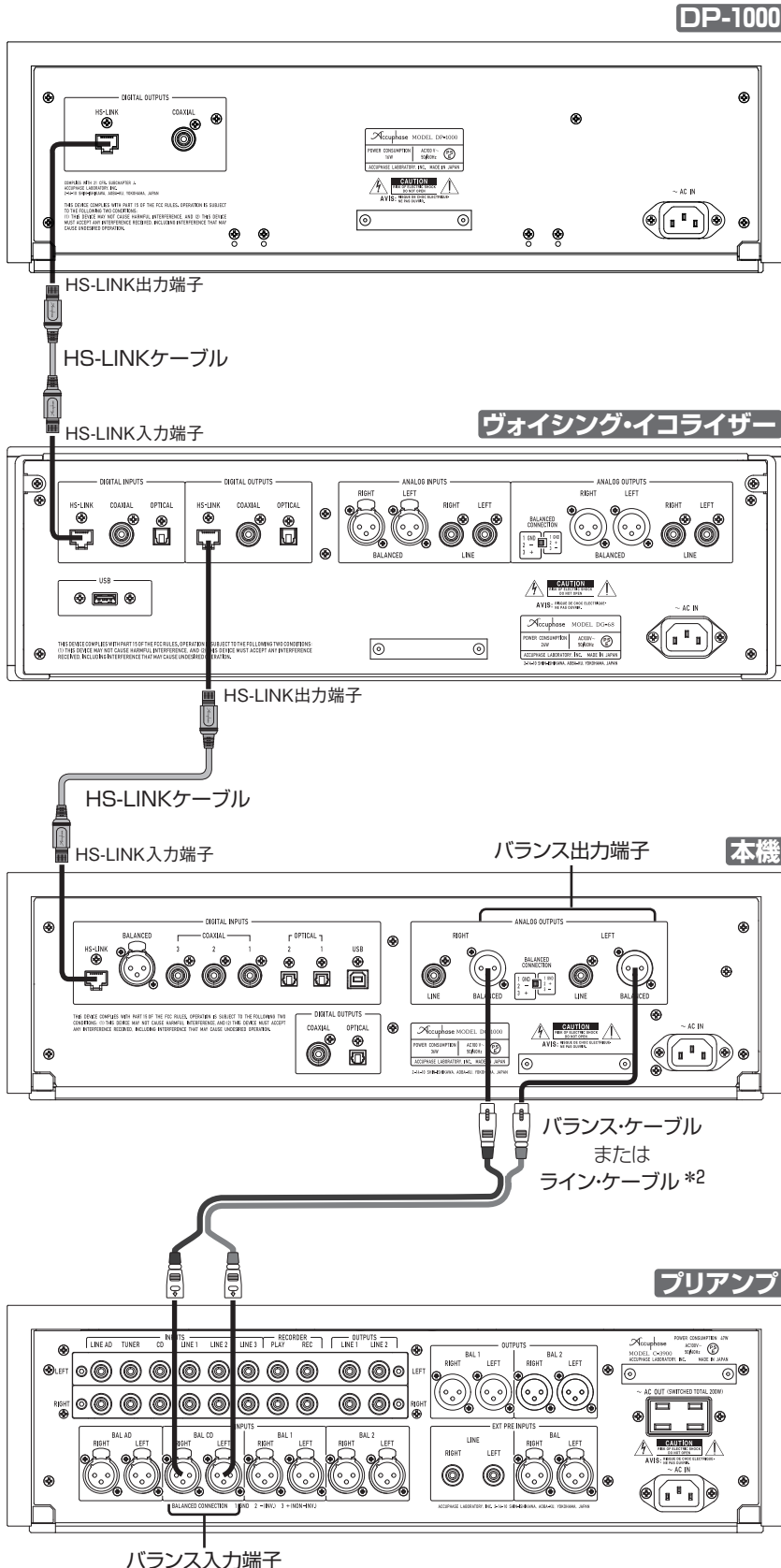
注意

- 一度デジタル録音した音源は、SCMS(シリアルコピー・マネージメント・システム)により、再びデジタル録音することはできません。
- ソース側とレコーダー側相互のサンプリング周波数が合わないと録音できません。
- 録音すると、すべてのトラックは結合されて、1つのトラックになります。

注意 : 接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

4.7 ヴォイシング・イコライザーとの接続

ヴォイシング・イコライザーはプリアンプとパワーアンプの間にアナログ信号で接続する方法を推奨させていただいておりますが、ヴォイシング・イコライザー (DG-28を除く*1) をデジタル信号で接続する場合には、DP-1000と本機の間でHS-LINKケーブルで接続します。



接続方法
本機のご使用方法

メモ DP-1000とDG-58, DG-48, DG-38を接続する場合には、DP-1000のHS-LINK出力をVer.1に設定してください(DP-1000の取扱説明書参照)。

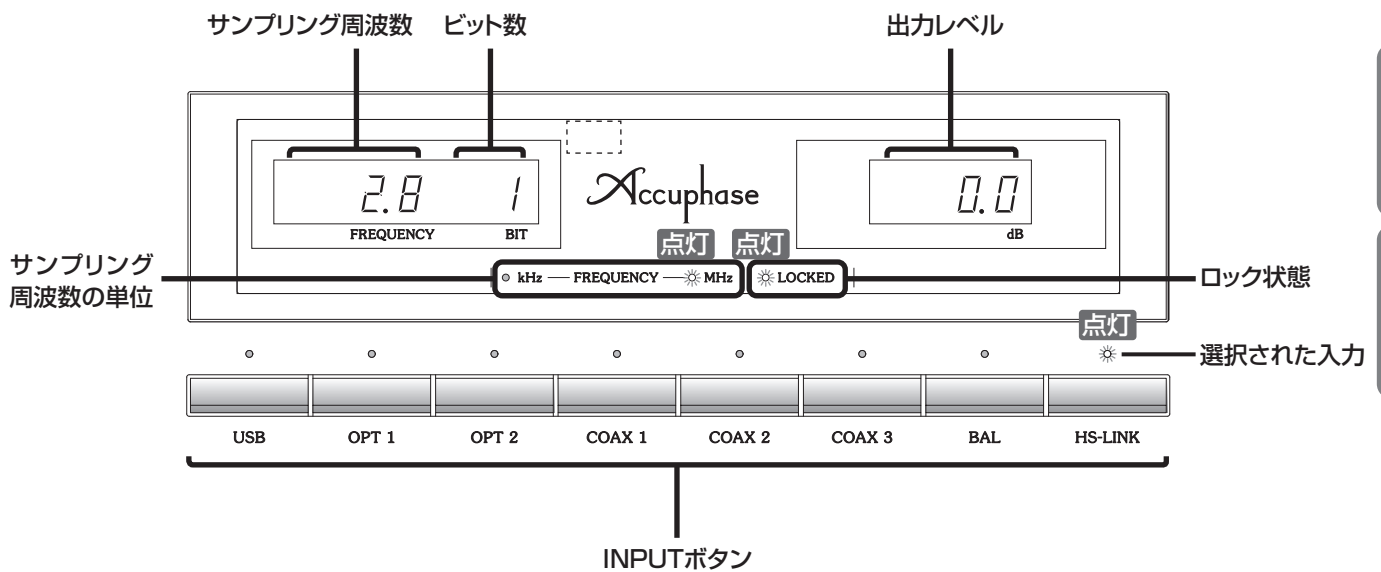
***1**
メモ DP-1000とDG-28を接続する場合には、同軸ケーブルで接続します。この場合CDのみの伝送となります。DG-28と本機を接続する場合には、同軸ケーブルまたは光ファイバーケーブルで接続します。

メモ ヴォイシング・イコライザーの入力端子に他の機器を接続して、ヴォイシング・イコライザーで音源を切り替えることも可能です。

***2**
注意 バランス・ケーブルとライン・ケーブルを同時に接続しないでください。アースがグループになってノイズを発生させる原因となります。

5. 本機のご使用方法

- 1 電源スイッチを押し、電源を入れます。
- 2 接続した外部入力機器を、本機のINPUTボタン、またはリモート・コマンダーのINPUTボタンで選択します。
- 3 入力信号をロックするとロック状態を表すインジケーターが点灯し、サンプリング周波数とビット数を表示して演奏が始まります。



〔表示例〕 SA-CD演奏時

接続方法

本機のご使用方法

6. HS-LINK について

HS-LINKは弊社製品を広帯域デジタル信号で接続する、弊社独自のデジタル信号伝送規格です。

HS-LINKにはオリジナルのVer.1と、サンプリング周波数とビット数を拡張したVer.2の2つの規格があります。どちらの規格もHS-LINKケーブルを使用します。

HS-LINK	フォーマット	サンプリング周波数	ビット数	接続ケーブル
Ver.1	DSD	2.8MHz	1	HS-LINK ケーブル
	PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192kHz	16~24	
Ver.2	DSD	2.8 / 5.6MHz	1	
	PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192 / 352.8 / 384kHz	16~32	

HS-LINKはアキュフェーズ株式会社の登録商標です。

「Ver.1対応機器」と「Ver.2対応機器」

HS-LINKを搭載した機器は、Ver.1のみに対応する「Ver.1対応機器」と、Ver.1/Ver.2の両方に対応する「Ver.2対応機器」に分類されます(下表)。

分類	機種
Ver.1 対応機器 (Ver.1 のみに対応)	DP-900 / DC-901 / DP-800 / DC-801 / DP-100 / DC-101 / DP-720 / DP-700 / DP-600 / DP-550 / DF-55 / DF-45 / DG-58 / DG-48 / DG-38 オプション・ボード挿入時：DP-85 / DP-78 / DP-77 / DF-35 / DC-330 / DC-300
Ver.2 対応機器 (Ver.1/Ver.2 に対応)	DP-1000 / DC-1000 / DP-950 / DC-950 / DP-770 / DP-750 / DP-570 / DP-560 / DC-37 / DF-65 / DG-68 (2024年1月現在)

注意：「Ver.2対応機器」から「Ver.1対応機器」への接続方法

「Ver.2対応機器」から「Ver.1対応機器」へ接続する場合には、「Ver.2対応機器」の出力信号設定を手動でVer.2からVer.1に切り替える必要があります。切替方法については、各機器の取扱説明書をご覧ください。

Ver.2対応機器

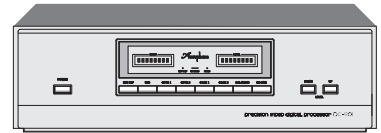


工場出荷状態での出力信号はVer.2

Ver.2の信号

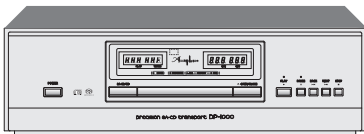


Ver.1対応機器



Ver.1対応機器はVer.2の信号を受信できません

Ver.2対応機器

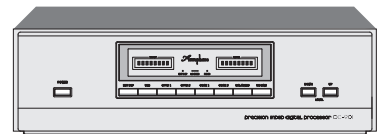


手動で出力信号をVer.2からVer.1に切り替え
(取扱説明書参照)

Ver.1の信号



Ver.1対応機器



Ver.1対応機器はVer.1の信号であれば受信できます

メモ 「Ver.1対応機器」から「Ver.2対応機器」へ接続する場合には、切り替えの必要はありません。そのままお使いいただけます。

HS-LINKケーブル



AHDL-15(DP-1000に付属)	1.5m
AHDL-30(特注品)	3.0m

HS-LINKコネクタ

キャップをとる

差すとき

コネクタとプラグの形状を合わせ
カチッと音がするまで入れる

プラグ

抜くとき

プラグの下のロックレバーを
指で押さえながら抜く

ロックレバー

*外したキャップは保管しておいてください。

7. 保証特性

[保証特性はJEITA測定法CP-2402Aに準ずる]

デジタル入力

HS-LINK

コネクタ形状 : RJ-45
適合ケーブル : HS-LINK専用ケーブル

BALANCED

フォーマット : IEC 60958 AES-3準拠
適合ケーブル : 110Ωデジタル・バランスケーブル

COAXIAL

フォーマット : IEC 60958 AES-3準拠
適合ケーブル : 75Ω同軸デジタルケーブル

OPTICAL

フォーマット : JEITA CP-1212準拠
適合ケーブル : JEITA規格光ファイバー

USB

フォーマット : USB2.0ハイスピード
(480Mbps)準拠
適合ケーブル : USB2.0ケーブル

サンプリング周波数

HS-LINK (Ver.2) 14ページ参照

32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、
192kHz、352.8kHz、384kHz (各16~32bit 2ch PCM)
2.8MHz、5.6MHz (1bit 2ch DSD)

BALANCED

32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、
192kHz (各16~24bit 2ch PCM)

COAXIAL

32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、
192kHz (各16~24bit 2ch PCM)

OPTICAL

32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz
(各16~24bit 2ch PCM)

USB

44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、
192kHz、352.8kHz、384kHz (各16~32bit 2ch PCM)
2.8MHz、5.6MHz、11.2MHz (1bit 2ch DSD)
(11.2MHz : ASIOのみ)

デジタル出力

COAXIAL

フォーマット : IEC 60958準拠

OPTICAL

フォーマット : JEITA CP-1212準拠

D/Aコンバーター

8 MDSD方式(DSD信号)
8 MDS++方式(PCM信号)

周波数特性

0.5~50,000Hz +0,-3dB

全高調波ひずみ率 + 雑音

0.0004% (20~20,000Hz)

S/N

123dB

ダイナミックレンジ

121dB

チャンネル・セパレーション

120dB (20~20,000Hz)

出力電圧・出力インピーダンス

BALANCED : 2.5V 50Ω 平衡 XLRタイプ
LINE : 2.5V 50Ω RCAフォノジャック

出力レベル・コントロール

0dB~-80dB (デジタル方式)

電源

AC100V 50/60Hz

消費電力

36W

最大外形寸法

幅477mm × 高さ156mm × 奥行394mm

質量

24.4kg

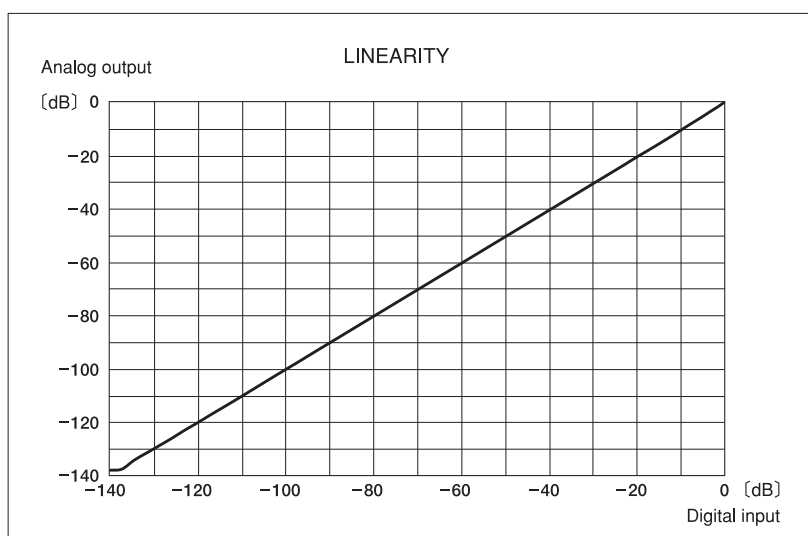
●本機は「JIS C-61000-3-2 適合品」です。
JIS C-61000-3-2 適合品とは、日本産業規格「電磁両立性—
第3-2部:限度値—高調波電流発生限度値(1相あたりの入力電流が
20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レ
ベルに適合して設計・製造した製品です。

*本機の仕様・特性および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

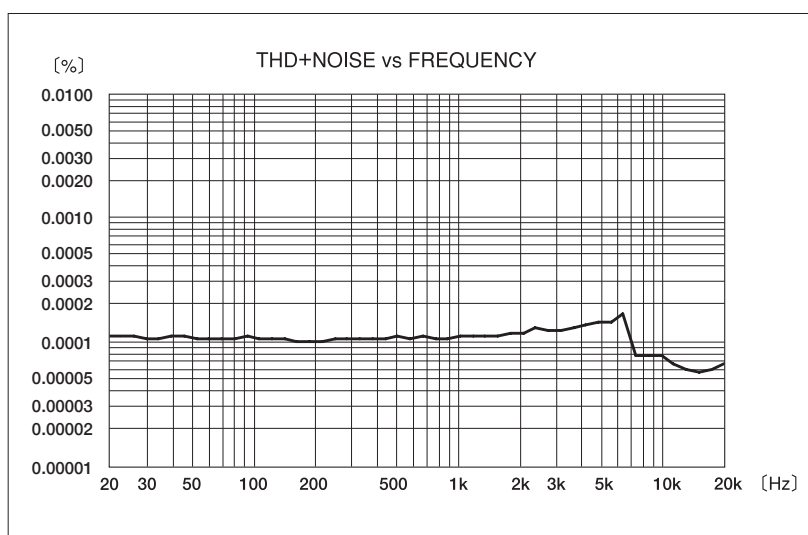
著作権について

放送や録音物(CD、テープなど)から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

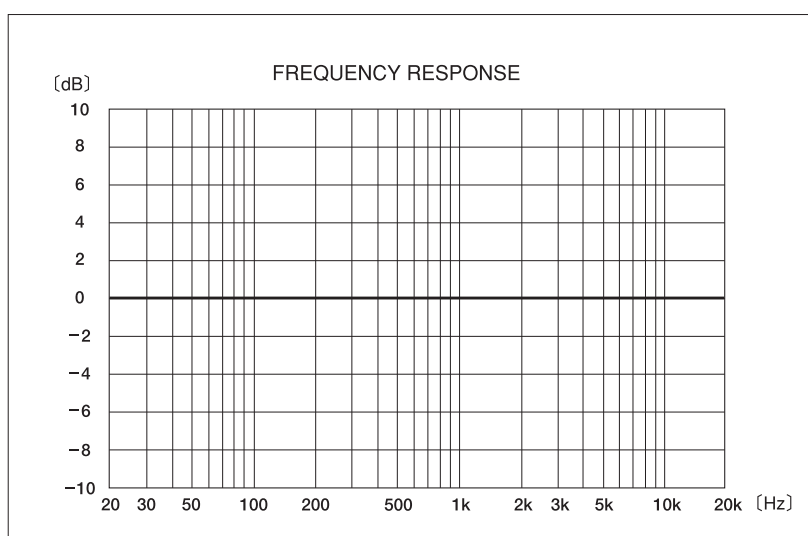
8. 特性グラフ



リニアリティ
(デジタル入力対アナログ出力)



全高調波ひずみ率
(雑音含む) 対周波数特性

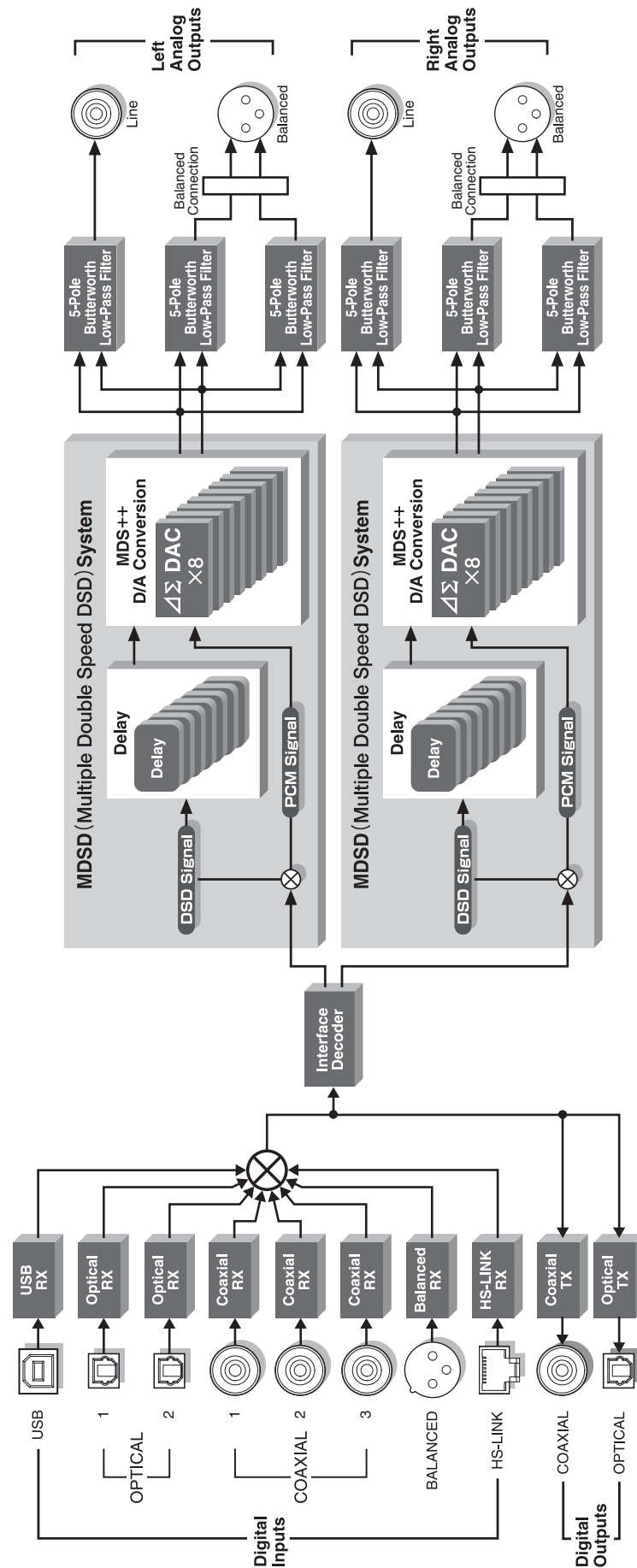


周波数特性

特性グラフ

ブロック・
ダイアグラム

9. ブロック・ダイアグラム



特性グラフ
ブロック・ダイアグラム

10. 故障かな?と思われるときは

故障かな?と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。

これらの処置をしても直らない場合には、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。



注意：接続を変えるときは、必ず各機器の電源スイッチを切る。

現象	原因等	対処方法
電源が入らない。	電源コードが抜けている。	本体側とコンセント側の挿入箇所を確認します。
	電源コードが傷んでいる。	危険ですので傷んでいる電源コードは使用せず、当社製品取扱店または当社品質保証部へご連絡ください。
演奏が始まらない。	異なる入力を選択している。	2 INPUTボタンで選択している入力をお確かめください。
	DP-1000と同軸ケーブルで接続し、SA-CDを演奏している。	HS-LINKケーブルで接続してください。同軸ケーブルではSA-CDの信号を伝送できません。
音が途切れる。 雑音が出る。	光ファイバーケーブルのプラグが汚れている。	光ファイバーケーブルのプラグをご確認ください。
両方または片方のスピーカーから音が出ない。	接続が正しくされていない。	全ての機器が正しく接続されているか確認します。
	信号が出力されていない。	全ての機器が信号を出力する状態であるか確認します。
片方のスピーカーから音が出ない。	上記“両方または片方のスピーカーから音が出ない。”の原因に該当しない場合。	下記“片方のスピーカーから音が出ない場合に原因を探す方法”をお試しください。
定位感がはっきりしない。	片方のチャンネルだけ位相が逆になっている。	スピーカー・ケーブルの極性 (+ / -) が正しいか確認します。
リモート・コマンダーで操作できない。	電池が入っていない。	電池を入れる。
	電池の極性が異なる。	電池ケースの⊕⊖を確認し、電池を正しく挿入する。
	電池が切れている。	新しい電池と交換する。
	受光部付近に障害物がある。	受光部付近に障害物を置かない。
	テレビやインバーター照明等の影響で、受信できない。	テレビやインバーター照明等から離す。

片方のスピーカーから音が出ない場合に原因を探す方法

注意：接続を切り替える時は、必ず各機器の電源を切る

手順	方法	結果	原因
1	左右のスピーカー・ケーブルの接続を以下のように入れ替えます。 ●パワーアンプ(またはプリメイン・アンプ)の左チャンネル → スピーカーの右チャンネル ●パワーアンプ(またはプリメイン・アンプ)の右チャンネル → スピーカーの左チャンネル	同じチャンネルのスピーカーから音がでない。	スピーカー・ケーブルの接続やスピーカーに問題があると考えられます。
		反対チャンネルのスピーカーから音がでない。	プレーヤーまたはプリアンプまたはパワーアンプ(またはプリメイン・アンプ)に問題があると考えられます。さらにセパレート・アンプの場合には手順2を、プリメイン・アンプの場合には手順3を行います。
2	ケーブルの接続を以下のように入れ替えます。 ●プリアンプの左チャンネル → パワーアンプの右チャンネル ●プリアンプの右チャンネル → パワーアンプの左チャンネル	同じチャンネルのスピーカーから音がでない。	パワーアンプに問題があると考えられます。
		反対チャンネルのスピーカーから音がでない。	プレーヤーまたはプリアンプに問題があると考えられます。さらに手順3を行います。
3	ケーブルの接続を以下のように入れ替えます。 ●本機の左チャンネル → プリアンプ(またはプリメイン・アンプ)の右チャンネル ●本機の右チャンネル → プリアンプ(またはプリメイン・アンプ)の左チャンネル	同じチャンネルのスピーカーから音がでない。	プリアンプ(またはプリメイン・アンプ)に問題があると考えられます。
		反対チャンネルのスピーカーから音がでない。	本機に問題があると考えられます。

故障かな?と思われるときは

アフターサービスに申し込んで

11. アフターサービスについて

保証書について

- 保証書は本体付属の『お客様カード(保証書発行はがき)』の登録でお送りいたしますので、「お客様カード」を**当社品質保証部に必ずご返送ください。**
- 『お客様カード』の『お客様情報欄』には付属の『目隠しシール』を貼ってご返送ください。
- 保証書の記載内容により、**本機の保証期間はご購入日から5年間です。**
- 『品質保証書』の無い場合は、**全て有償修理となります**ので、『お客様カード』は必ずご返送ください。
- 『お客様カード』をご返送いただく時、ご購入日等を記入して頂きますが、下記の場合には『品質保証書』の発行ができないことがあります。
 - *ご記入頂いた購入日と弊社からの製品出荷日とが大きく異なる場合。
 - *『お客様カード』が返送されないまま、転売(インターネット等)された場合。
 - *長期間『お客様カード』の返送がない場合。
- オプション類には『お客様カード』を付属していませんが、製品出荷日をご購入日として弊社が登録し、『5年間保証』とさせていただきます。

保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。



注意

保証期間以降、長期に渡って安全にご使用いただくために、当社での定期的な点検を行ってください。内容については当社品質保証部にご相談ください。

その他

- 本機は絶対に分解や改造をしないでください。修理ができない場合があります。
- 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
- AC100V以外(海外)では使用できません。
- 保証は日本国内のみ適用されます。
The Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

- ご質問、ご相談、当社製品取扱店のご案内などは、下記の当社品質保証部へお願いします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
〒225-8508 横浜市青葉区新石川12-14-10
TEL 045(901)2771(代表)
FAX 045(901)8995

- 修理のご相談は、お買い求めの当社製品取扱店へお願いします。
- 当社のホームページ上でも修理のお問い合わせが可能です。
<https://www.accuphase.co.jp/>

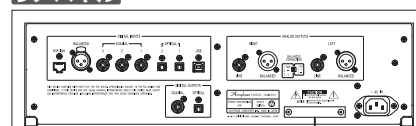
修理を依頼する場合には

- “故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、当社製品取扱店に修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号
- ご住所、氏名、電話番号
- ご購入日、ご購入店
- 故障状況：できるだけ詳しく

リアパネル



シリアル番号

- * 梱包材は、輸送時に必要となりますので、可能であれば保管しておいてください。

enrich life through technology



ACCUPHASE LABORATORY, INC.
アキュフェーズ株式会社
〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10
TEL.045-901-2771(代) FAX.045-901-8959
<https://www.accuphase.co.jp/>